

特派員として初めてのレポート、今回は私の住む甲賀町岩室区の取り組み「あじさいの里づくり」取材しました。

こうか  
まちかど特派員  
はた 久男



# あじさいの里づくりにもえて



「**どんど公園**」をアジサイいっぱいにして、甲賀町岩室区の農村公園は、ネーミングを一般公募して「どんど公園」と命名されています。昔からこの辺りは「どんど」と呼ばれていたため、応募名の中からこれを選ばれたと記憶しています。区民が集う、広いグラウンドのなかった地区ですので、6アールの広さを誇る運動公園は、子どもからお年寄りまで広く利用され、体力の向上と交流の場として、区民の憩いの場としても大いに役立っています。

これまで、この公園を囲む三方の土手、高さ約20メートル、延長約180メートル以上の急傾斜地には、ただ雑草だけが生い茂り、殺風景な印象を受けるグラウンドでした。この地を何とかしようと区民で考えられたのが、花木の植樹でした。

何がよいかいろいろと研究された末に、余り大きくならず、雑草にも強い、長い日数を咲いて楽しませてくれるアジサイが選ばれました。

めざすは「アジサイの名所」  
目標は5000本

平成14年、まず100本の植樹から始まりました。区役員、組長、老人クラブ会員の有志の皆さんが集まり、草を刈り整備されましたが、草の根が広がり、急傾斜地のため大変な労力を要したそうです。そうして「アジサイの里づくりを進める会」を設立されました。

今年も見事に咲き誇ったアジサイ



斜面での草刈りは大変な作業



管理運営全般を岩室老人クラブが引き受けて、年間5回以上の草刈り、花後の剪定や施肥などに、出役を続けておられます。毎年植え続け、新植と枯れたところへの補植をして、現在では3500本に達しています。新植して3年目くらいになると立派な花を咲かせるようになってきます。美しい郷土の建設をめざし、アジサイの里づくりを進めるこの事業もだんだんと軌道に乗って、岩室老人クラブの大きな事業として根づいてきています。

幼児を連れのお母さんたち、ボール遊びに歓声を上げる子どもたち、ゲートボールやグラウンドゴルフを元気に楽しむお年寄り。こうした区民の交流を周囲から見守るかのように、アジサイは今年も鮮やかな色で咲いています。新名神の開通も近く、市内には数少ないと言われるアジサイの名所として区民が誇れるよう、また後世に残せるよう、同会のメンバーを中心に5000本を目標に努力されています。

アジサイの里として夢はふくらみ

同会では、今後あじさいまつりなどのイベントの構想も練り、夢の実現のため努力を続けておられます。グラウンドには、新しく休憩舎が「あじさい館」と名付けられ、また、県道里駅で毎週土曜朝に、区民が出荷して開設する新鮮野菜の販売所も、「味菜市」として好評です。

アジサイ一色の岩室の里ですが、乾燥したアジサイにホースで水をまいたり、くずの根を掘ってアジサイの生育を助けたり、野菜や花類の生産、販売に力を入れる区民の皆さんの努力は、必ず実を結ぶことでしょう。